

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01510

研究課題名（和文）世界史における交換の多様性と貨幣の多元性についての国際共同研究

研究課題名（英文）International Collaborative Research on the Variety of Exchange and Multiplicity of Money in Global History

研究代表者

黒田 明伸（Kuroda, Akinobu）

東京大学・東洋文化研究所・名誉教授

研究者番号：70186542

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,500,000円

研究成果の概要（和文）：パリにて開催の第19回世界経済史学会にて部会「世界史における外生的貨幣と内生的貨幣間の補完性」を日・伊・蘭・仏・英・瑞から報告者を迎えて主宰。貨幣が流動性を担うあり方の多様性とその変動について世界的視点から議論が行われた。高額面通貨を基準にして下位の額面通貨を記号化していくか、小額面通貨を基準にして上位の額面通貨を記号化しているか、によって非常に異なる額面体系が機能することが着目された。また、ともに小農の現地市場での小額通貨使用が重要なアジアとアフリカの間の比較から、高位の市場との間を結ぶ中間市場の在り方に社会ごとに差異があるとの新たな視角を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

人々の間に分業が生じ、かれらの間の交換が市場の形成をもたらし、また交換の手段として貨幣が生まれる、というアリストテレス以来の因果認識は根強いが、世界史は通貨供給が市場の形成を促すという逆の因果関係をすくなく示す。ただし、あくまで基層に届く通貨供給の場合であり、通貨当局とその周辺の組織の帳簿上の数値が膨らんでいるだけでは、実際の現場の取引に対する効果はないことを強く示唆する。また、世界史上の多様な貨幣制度の比較は、貨幣には流動性をもつと同時に流れすぎないようにする非流動性を兼ね備えている属性があるのではないかと、この視角をもたらした。

研究成果の概要（英文）：The session titled ‘Complementarity between Exogenous Money and Endogenous Money in Global History’ was held at the 19th World Economic History Congress in Paris on 27th Jul 2022. The scholars from Japan, Italy, the Netherlands, France, the UK and Sweden presented on the diversity of liquidity provided by money and its transformation throughout global history. One point of discussion was the contrast between a one monetary system built on the smallest unit currency and one based on high denomination currency. The comparison between Asia and Africa revealed the importance of focusing on the intermediate markets that connect local markets with interregional markets, highlighting the differences in monetary usages by society.

研究分野：世界貨幣史

キーワード：貨幣 世界史 国際共同研究 流動性 市場 小農 アジア アフリカ

### 1. 研究開始当初の背景

政治経済学は、国際経済を除き、貨幣は一つであることを前提にして積み上げられてきた。しかし実際には20世紀の初頭まで人類の過半は複数の貨幣を使用して交換を成り立たせてきたのである。貨幣の統一が取引費用を減少させ経済効率を上げる、というような目的論的思考でもってそれらの現象を非効率なものとして切り捨てる前に、なぜそもそも貨幣が同じ社会の中で併存したのかを問わねばない。「悪貨が良貨を駆逐する」というような流布した先見とは異なり、歴史上多くの場合、貨幣と貨幣はすみわけをしながら、異なる需給の変動に応じて、その間の交換比率を変動させるのが常であった。なぜ一つの貨幣だけで取引を媒介することにならないのか。それは、貨幣は交換のための手段にほかならないが、交換という行為がそもそも多元的だからである。研究代表者の黒田はそうした視角を共有する世界各国の貨幣研究者と研究協力をすすめてきた。世界経済史学会をその主たる成果発表の場とし、黒田は2006年第14回ヘルシンキ大会から2018年第18回ボストン大会まで5回続けて世界貨幣史の部会を主宰してきた。

### 2. 研究の目的

貨幣現象を論じるとき「悪貨が良貨を駆逐する」というような貨幣間の代替性を前提にした議論がなされやすい。しかし人類史全体においては複数の貨幣が機能的分業をもって併存する貨幣間の補完性を示す現象の方が多数であった。貨幣の多元性は交換の多様性に由来する。交換にあった手段を多様に組み合わせて各社会は交易を成り立たせてきた。その組み合わせが社会ごとにどのように違ったかを分析し、そうした相違が世界全体の変化とどう関連してきたか、を明らかにする。国際共同研究を通して、現行の社会科学がいわば与件としている一国一通貨制度が、人類史においてはむしろ特異な近代の所産であることが詳らかになり、ひいては望ましい貨幣システムを構想するための基礎となる視角を提供することになる。

### 3. 研究の方法

多数が対面して交渉する現地での交換と双務的に隔地で交渉される交換、匿名的に一回性取引を志向する交換と指名的で継続性取引を志向する交換とでは、それぞれ適応する媒介手段が異なる。そのため各社会は時代に応じて、4つの手段をさまざまに組わせて、交易全体をなりたててきた。例えば、I：匿名・隔地（貴金属通貨）、II：指名・隔地（為替手形）、III：指名・現地（帳簿決済）、IV：匿名・現地（卑金属通貨）のごとく。媒介手段となるものは極めて多様であり、宋以前の中国のように金銀がほとんど貨幣として流通しなかった場合もあれば、中世西欧のように銅貨がほとんど鑄造されなかった場合もあり、4象限の組み合わせは文明のあり方と密接にかかわっている。また為替手形が正貨不足のため現地通貨として機能した例もあるように、ある媒介手段が象限の境を超えて機能する場合もある。社会ごとによる相違を世界的に俯瞰し、人類史を通しての時代による変化を踏まえて、現行の一国一通貨制度がいかに交換の多様性を包摂してきたのか、あるいは統合しきれずにきたのか、を問う。

#### 4 . 研究成果

研究代表者の黒田は、2020年にモノグラフ A Global History of Money を刊行した。貨幣は交換の手段であるが、その交換のそもそもの多様性が貨幣の多元性をもたらし貨幣間の補完性を生じさせるという視座を確立し、人類の多数を占める農民などの民衆レベルでの貨幣使用の特殊性とその変容に着目することにより、1300年前後のモンゴル帝国体制、1600年前後の銀の世界的流通、1900年前後の国際金本位体制を画期とする、自律的であった現地通貨を国家が他律化していく過程として世界貨幣史を再解釈したものである。

この問題意識を共有しながら、2022年7月27日パリで開催の第19回世界経済史学会にて部会 Complementarity between Exogenous Money and Endogenous Money in Global History が日・伊・蘭・仏・英・瑞から報告者を迎えて黒田の主宰により開催された。近世日本の藩札、英領東アフリカの植民地通貨、現代アルゼンチンの地域通貨、近代フランスの地方銀行券、近代英国の地方で流通した個人振出手形、近代スウェーデンの二元的銀行券流通、中華帝国通史に現れた政府通貨と現地の通貨慣行の対応、を題材として、貨幣が流動性を担うあり方の多様性とその変動について世界史的視点から議論が行われた。同学会において、黒田は部会 Money of the Poor, money for the poor or money by the poor?において分割不可能なほどの零細額面通貨が小規模経営の小農たちとの間の現地市場での売買成立をうながす傾向を論じた Atomic Currencies for the Exchanges among Commoners を、部会 Paper Money in Practice and Theory in the World History -Millennium Memorial for Paper Money Initiation において元朝統治下の政府紙幣が兌換されることなく流通区域を区切って通し番号を記入された旧札を新札に交換するシステムで流通させることができたことを論じた A Paper Money Standard in the Fourteenth Century China を報告した。

国際共同研究の一環として、黒田は2020年1月ボローニャ大学にて開催されたアフリカ貨幣史国際会議に参加し、その報告をもとに、アフリカとアジアの小農経済の、現地市場での交換を媒介する小額貨幣への依存度の高さという共通性と、大陸間交易に対してより開放的であったアフリカの特性を論じる考察を、Karin Pallaver 編の *Monetary Transitions* の最終章として刊行した。

研究対象の中心である伝統中国について、黒田は、北京の国家図書館所蔵の農村市鎮の雑貨商統泰号の帳簿と経済研究所所蔵の安徽省屯溪県にて収集された宗族による祭祀帳簿に基づき、伝統中国では銀が計数貨幣ではなく秤量貨幣として根強く使用されたのは、商人たちの間の帳簿間決済と関係することを論じた論説を『中国経済史研究』において刊行し、また19世紀において農村市場で銅銭をもって取引される穀物などの価格の変動が銀銭比価の動きから独立していることを明らかにして、農民たちが日常的に売買する現地市場が地域間市場から自律的であることを実証し、そのことを中国通史の中に位置づけた論考を『ケンブリッジ中国経済史』の一章として刊行した。

貨幣の世界史としての視角からは、モンゴル帝国体制下のユーラシア大陸における共時的な貨幣現象の解明を進めた。13世紀後半から14世紀中葉にかけて、ロンドンなど欧州の銀貨発行額の変動と、元朝による紙幣発行額の変動、そして残存するベンガルにて発行された銀貨の年次推移などがほぼ同調していることから、モンゴル帝国体制下において紙幣も含めた諸通貨の間に銀建てでの通約性が生じたとの仮説をたて、モルドバ国立歴史博物館に収蔵された14世紀中葉のキプチャクハン国遺構出土の銀錠に中国起源の特徴があることにより、投下とよばれた中国での封地から西方ハン国へ貢納としてもたらされた銀の移動がユーラシア大陸全体の貨幣現象を同調させた、と見解を補強した論考を『ケンブリッジ・

モンゴル帝国史』の一章として刊行した。

黒田はパリのフランス銀行史料館にて1920年代の銀市場についての資料、インドシナ銀行の投資についての資料を調査し、またフランス国家図書館と言語文化大学図書館（通称BULAC）にて資料調査をし、1860年代のフランス軍人のセネガルやマリに派遣された時の旅行記において貝貨で米や肉を買っている値段が記されていることを知見し、『安南とその小額貨幣』という1882年頃に出版された本や1905年にパリで公刊された『大南貨幣図録』などにより、銅銭を作る工程をスケッチした図版や、1900年頃出土の13世紀のベトナムでの埋蔵銭の種別構成を確認し、同時代の中国や日本での埋蔵銭との共通性や差異を知ることができた。

また黒田は、台湾の国史館において日中戦争下の法幣の送金についての資料を調査し、国立台湾博物館において18世紀の台湾におけるオランダ商人が残した現地物価資料について知見を得、また中央研究院歴史語言研究所において漢籍データベースを利用し、歴代方志、歴代別集のデータベースから銭票や小額紙幣について情報を収集した。ことに銭票が遺失物として19世紀には中国全土において記録されていること、また14世紀元朝治下の中国において零細額面紙幣の消失が地方の交換に支障をもたらしていることを確認し、「新銭」「旧銭」などの語彙の使用例を知りえた。また貨幣使用事情の変化の背景について16世紀の中国東南沿岸での倭寇の活動状況などについて知見を得ることもできた

黒田は、ライデンの民俗学博物館にてジャワの青銅仏像などを実見し、ジャワには銅山がないのに、と博物館の解説文にはあるが。年代がわかるのもののはすべて10から13世紀となっていて、すべて中国銅銭を溶かしたものであるとの黒田の仮説を支持することを確認した。また市立函館博物館所蔵の志海苔古銭を実見し、14世紀までの日本の人々は、貨幣というよりもむしろ金属素材として銅銭を重宝していたため、銭銘不明な銭も、割れた銭も、一緒に蓄えておかれていた、との見解を補強することができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 黒田 明伸	4. 巻 32
2. 論文標題 撰銭以前 志海苔古銭についての一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 市立函館博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Akinobu Kuroda	4. 巻 -
2. 論文標題 Another History of Money Viewed from Africa and Asia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Monetary Transitions. Currencies, Colonialism and African Societies	6. 最初と最後の頁 265-291
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田明伸	4. 巻 1
2. 論文標題 中国貨幣史上的用銀転変一切片、秤重、入帳の白銀	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国経済史研究	6. 最初と最後の頁 17-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 12件/うち国際学会 13件）

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 Continental Factors in Establishing the Kan'ei Coins by the Tokugawa Government
3. 学会等名 First International Conference on East Asian Cultures, St Anne's College, University of Oxford（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 A Monetary Unification Neglecting the Ground Level: Myth of Unified Money in 1935 China
3. 学会等名 The Money of the Poor, Universite Paris Nanterre (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 Transformation of Silver Usage in Chinese Monetary History: Silvers Cut, Weighed, and Booked
3. 学会等名 Center of Chinese Studies Seminar , National Central Library, Taipei (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 A Global History of Money Viewed from the Ground
3. 学会等名 Economic History Seminar, National Taiwan University, Faculty of Economics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 Revisiting the “Modernity” in Monetary History Viewed from the Ground’, Symposium ‘New Scope of Monetary History Research
3. 学会等名 ‘New Scope of Monetary History Research’, Institute of Modern History, Academia Sinica (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 Locate Colonial Africa in the Global Monetary History Viewed from the Ground
3. 学会等名 Monetary Transitions in Colonial Africa”, Department of History and Cultures, University of Bologna (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 Modernity’ as a Product of Global Delocalization of Money,
3. 学会等名 Early Modern Financial History Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 Atomic Currencies for the Exchanges among Commoners,’ in Session ‘Money of the Poor, money for the poor or money by the poor?’
3. 学会等名 19th World Economic History Congress (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 A Paper Money Standard in the Fourteenth Century China
3. 学会等名 19th World Economic History Congress (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 Dynamics Assorting Exogeneous and Endogenous Monies through Imperial Chinese History
3. 学会等名 19th World Economic History Congress ( 国際学会 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 Chinese Monetary History in Global Monetary History,
3. 学会等名 East Asian Histories and Cultures ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 Characteristics of the Chinese Empire Viewed from Global Monetary History
3. 学会等名 Department of History Seminar, National Chengchi University ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 The End of Medievals: The Ignition of Global Monetary History under the Eurasian Mongol Regime
3. 学会等名 Workshop “ Comparing Medieval Histories: China and the West ” ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4. 発表年 2024年



## 〔図書〕 計3件

1. 著者名 Akinobu Kuroda, Richard von Glahn	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 732
3. 書名 Cambridge Economic History of China Vol 1	

1. 著者名 黒田 明伸	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 372
3. 書名 貨幣システムの世界史	

1. 著者名 Akinobu Kuroda, Michal Biran, Kim Hod	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 930
3. 書名 Cambridge History of Mongol Empire Vol 1	

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=SunJu1070515372019>  
<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=FriOct251326342019>  
<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=SatDec071445492019>  
<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=SatJan181332372020>

## 6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Variety of Exchange and Multiplicity of Money in Global History, Universite Paris Nanterre	開催年 2019年～2019年
--	--------------------

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	University of Oxford			
スウェーデン	Uppsala University			
英国	University of Cambridge			
イタリア	University of Bologna			
フランス	Universite Paris Nanterre	Sciences Po Lyon		
オランダ	International Institute Social Sciences			
ロシア連邦	NRU Higher School of Economics			
その他の国・地域	National Taiwan Normal University	National Chengchi University		